

上野駅公園口の正面に建つ大きな建物が、音楽の殿堂として知られる東京文化会館です。1961年の開館以来、日本を代表するクラシック音楽の拠点として、多くの名演奏を生み出してきました。東京には大規模なホールがいくつもありますが、純粋に音楽公演を主目的として造られたホールとして最大なのは、渋谷にあるNHKホールの3,601席です。一方、クラシック音楽専用のコンサートホールという点に限れば、東京文化会館の大ホールは2,303席で東京最大を誇ります。これは第2位のサントリーホールの2,006席を上回る規模で、オーケストラ公演やオペラ上演において大きな存在感を持っています。

このホールが世界の演奏団体から高い評価を受けている理由の一つは、舞台の広さと充実したバックヤード設備にあります。特に海外のオペラ公演では、舞台装置や出演者が多くなるため、舞台裏の広さや動線の確保が非常に重要になります。その点で東京文化会館は、日本のホールの中でも特に信頼されている存在です。

この東京文化会館をホーム舞台としているのが、東京都を代表するオーケストラである「東京都交響楽団（都響）」です。私はもう何年も前からその定期演奏会の会員になっており、月に一度、このホールを訪れて演奏を楽しんでいます。毎回同じ指定席で音楽を聴くことができるのも、定期会員ならではの楽しみです。

実はこの大ホールには、2,303席もある中でわずか4席だけ「1人掛けの席」があります。1階席に2席、2階席に2席です。私が座っているのはそのうちの一つで、場所は2階席の最前列です。隣席を気にすることなく、舞台全体を見渡しながら音楽に集中できます。更に、弦五部だけでなく、楽団後方の木管金管パート、多彩なパーカッションの演奏までよく見える、まさに特等席といえる場所なのです。

しかし東京文化会館は、今年から大規模な改修工事に入る予定になっています。そのため、この素晴らしい席とも、しばらくの間はお別れです。それでも、改修後には再び同じ席を確保していただける約束になっています。数年後、この場所で再び音楽を聴く日を、今から楽しみに待っています。

